

1. 職名・氏名 准教授 佐藤晋也

2. 学位 学位 博士（自然科学）、専門分野 藻類学、授与機関 プレーメン大学、
授与年月 2008年7月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生物学実験（1） 学部2年生 4コマ	
②内容・ねらい（自由記述） 顕微鏡観察や光合成色素の抽出といった作業を通じ、生物学の実験を行う上での基本操作を学ぶ。またレポート作成により、得られた結果をまとめ分かりやすく発信する能力を身につける。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 実験のしおりを作成し、また実験開始直前にも導入解説を行い実験中特に注目すべき点や注意点を周知させ、実験内容の理解を助ける。観察材料として身近に生育している藻類を使うことで、生物多様性についての認識を深める。標本作成や同定作業を全員に課し、場合によっては個別に指導を行うことで、各自の観察能力の向上を目指す。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 海洋生物学実験（1） 学部2年生 12コマ	
②内容・ねらい（自由記述） 生物学の実験遂行に際し必要不可欠である顕微鏡操作を習得する。材料には珪藻を用い、同定した珪藻相からサンプル採集地点の水質を判定する。実験結果をレポートにまとめることで、研究の背景や問題点の理解、適切な問題解決法の選択、得られた結果の解釈といった科学研究に必要な一連の能力を養う。また班単位で実験を行うことで協調性を身につける。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 基礎的な内容の解説に加え応用的な側面についても触れることで、生物を多面的に捉える視点を養う。またインターネット上で珪藻を使った水質判定ができるソフト「シムリバー」を授業に導入し、インタラクティブな講義を通じて実験で得られた結果を考察する。走査型電子顕微鏡を学生自身が操作する時間を与え、光学顕微鏡との比較を通じ、顕微鏡の原理についての理解を深化させる。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 科学英語Ⅱ（2） 学部3年生 5コマ	
②内容・ねらい（自由記述） 各自の卒業論文研究に関連する英語科学論文を読む。論文特有の書式や表現に慣れ、また関連分野の背景や動向を把握することで各自の卒業研究がもつ科学的な意義を理解する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 英語科学論文を読む際につまづきがちな(1) 科学的な理解不足 (2) 英文読解の際の難しさ、の2つの異なる問題を混同しないよう指導する。(1) に関しては教科書や辞典の使い方に加え、インターネットによる情報収集法にも触れ、(2) は平易な例文を示すことにより読解力の強化をはかる。	

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 進化系統学 (2) 学部 3 年生
②内容・ねらい (自由記述) 進化がどのように認識され、生物学によってどのように解明されてきたのかを概観する。また進化を考える上で必要な系統学の基礎概念や分子系統解析の手法について、演習を交えながら解説する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 講義では進化の事例を紹介するにあたり、海洋に関連したものや最新的话题を取り入れる。複雑な箇所についてはビデオを用いた解説も組み合わせ、理解を助けるよう工夫する。
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 基礎演習 (1) 学部 3 年生 15 コマ
②内容・ねらい (自由記述) 英語科学論文を講読し、内容を理解しそれを分かり易くまとめて口頭で発表する、という科学研究を遂行するうえで大切な一連の能力の向上を図る。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 卒業論文研究に関連する分野の先行研究論文を選ぶことで、専門分野の課題と研究動向についての理解を深める。また自身の卒業研究遂行に必要な基礎的な知識を得、当該分野の手法や問題点について把握する。
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 専攻演習 (2) 学部 4 年生 30 コマ
②内容・ねらい (自由記述) 卒業研究に関連する論文を紹介し議論を行うことで、論文の背景および内容の理解を深め、自身の研究を遂行する上で必要となる論理的な思考力および解析力を養成する。論文の内容を咀嚼し、それを分かり易くまとめて発表することを繰り返すことで、スライド作成やプレゼン技術の向上を図る。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 発表後は質疑応答の時間を設けることで、科学分野における討論の方法を学び、また積極的に議論に参加する姿勢を養う。
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 フィールド演習 (2) 学部 1 年生 5 コマ
②内容・ねらい (自由記述) グループ活動を通じてレポートやプレゼン作成に必要な技術を身に着ける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 課題の発見から解決のための計画立案まで、技術的な点に関するアドバイスはするものの、基本的には学生同士が自由に意見し議論を深めることが出来るよう心掛けた。
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 環境分子生理学 (2) 修士課程
②内容・ねらい (自由記述) 生物が環境から受ける影響やその意義について、生理的・生態的・進化的視点から考察する。またこうしたアプローチの基礎となる方法論についても紹介し、特に電子顕微鏡については各自が実際に操作することで、原理の理解だけに留まらない深い知識を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

実際に電子顕微鏡の試料作成から観察までを学生自身が行うことで、座学だけでは得られない気づきやインパクトが得られるよう工夫した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
藻類学（2） 修士課程 8コマ

②内容・ねらい（自由記述）

藻類の形態、色素組成分布生活史など多様性を学ぶとともに、藻類の基本的な生き方である光独立栄養的生育についての学習を通じて、藻類多様性の意義を考えるとともに、地球環境における藻類の役割と重要性を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

各藻類グループの特徴や生活史など、教科書内容を暗記するだけになりがちな部分については、出来るだけそれぞれの現象についての解釈や進化的意義などについても解説することで本質的な理解に繋がるよう心掛けた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
藻類学概論（2） 修士課程

②内容・ねらい（自由記述）

藻類の形態、色素組成分布生活史など多様性を学ぶとともに、藻類の基本的な生き方である光独立栄養的生育についての学習を通じて、藻類多様性の意義を考えるとともに、地球環境における藻類の役割と重要性を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

各藻類グループの特徴や生活史など、教科書内容を暗記するだけになりがちな部分については、出来るだけそれぞれの現象についての解釈や進化的意義などについても解説することで本質的な理解に繋がるよう心掛けた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
水圏生物学専攻演習（2） 修士課程

②内容・ねらい（自由記述）

藻類の形態、色素組成分布生活史など多様性を学ぶとともに、藻類の基本的な生き方である光独立栄養的生育についての学習を通じて、藻類多様性の意義を考えるとともに、地球環境における藻類の役割と重要性を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

各藻類グループの特徴や生活史など、教科書内容を暗記するだけになりがちな部分については、出来るだけそれぞれの現象についての解釈や進化的意義などについても解説することで本質的な理解に繋がるよう心掛けた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
水圏生物学専攻実験Ⅰ（4） 修士課程

②内容・ねらい（自由記述）

課題設定から成果のとりまとめに至る過程における指導教員等との討論や修士論文中間報告会での発表を通して、科学的なコミュニケーション能力を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

月2回程度の進捗報告会により状況を把握し、適宜研究指導を行うよう努めた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 水圏生物学専攻実験Ⅱ（4） 修士課程
②内容・ねらい（自由記述） 課題設定から成果のとりまとめに至る過程における指導教員等との討論や修士論文発表会での発表および修士論文執筆を通して、科学的なコミュニケーション能力を身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 月2回程度の進捗報告会により状況を把握し、適宜研究指導を行うよう努めた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業論文（8） 学部4年生
②内容・ねらい（自由記述） 課題設定から成果のとりまとめに至る過程における指導教員等との討論や卒業論文発表会での発表および卒業論文執筆を通して、科学的なコミュニケーション能力を身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 月2回程度の進捗報告会により状況を把握し、適宜研究指導を行うよう努めた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 修士論文（8） 修士課程
②内容・ねらい（自由記述） 科学的研究の遂行に必要な一連の実験技術やデータマイニング、情報発信のスキルを身につける。海洋生物資源利用学専攻実験および専攻演習の成果を論文としてまとめるとともにその内容を口頭発表する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 月2回程度の進捗報告会により状況を把握し、適宜研究指導を行うよう努めた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 博士論文（8） 博士課程
②内容・ねらい（自由記述） 課題設定および計画立案からその実行を通じ、問題解決能力を高める。また成果の取りまとめや論文執筆を通して、博士に必要な一連の能力を身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 月2回程度の進捗報告会により状況を把握し、適宜研究指導を行うよう努めた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 地域活性化演習（1）
②内容・ねらい（自由記述） 地域を知り地域の人と交流し、地域に結果を還元することを学び、こうした体験を通じコミュニケーション能力を身に着ける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 市場・加工体験実習および定置網体験に副担任として参加した。参加学生の自発的かつ積極的な行動を促すことを目的に、各学生への細やかな対応を心掛けた。

(2)非常勤講師担当科目
①担当科目名 (単位数) 開講学校名 現代の生物学 II 神戸大学 理学研究科 2018 年度
②内容・ねらい (自由記述) 珪藻類の進化系統研究において、顕微鏡を用いた古典的な手法からゲノム解析/トランスクリプトーム解析といった最新のアプローチから分かってきた現象を概説する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 珪藻研究の実際の例に触れつつ、進化系統に関する最新の知見を紹介することで、複雑な実験についても具体的なイメージをもちやすいよう工夫した。
④本学における業務との関連性 (自由記述) 本学で学部 3 年生に開講している進化系統学のエッセンスをまとめた内容となっている。
(3)その他の教育活動
内容 大学院特別講義世話人：「水産生物のゲノム研究」中村洋路 2018 年度 大学院特別講義世話人：「海産無脊椎動物学・頭足類」窪寺恒巳 2019 年度

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 (タイトル、共著者の有無 (共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名 (号数)、掲載 (受理) 年月日)
<ul style="list-style-type: none"> • Sato S, Nanjappa D, Dorrell RG, Jimenez Vieira FR, Kazamia E, Tirichine L, Veluchamy A, Heilig R, Aury J-M, Jaillon O, Wincker P, Fussy Z, Obornik M, Muñoz-Gómez SA, Mann DG, Bowler C & Zingone A (2020) Genome enabled phylogenetic and functional reconstruction of an araphid pennate diatom <i>Plagiosiriata</i> sp. CCMP470, previously assigned as a radial centric diatom, and its bacterial commensal. <i>Scientific Reports</i> (受理日：2019 年 11 月 3 日) • Kahlert M, Kelly GM, Mann DG, Rimet F, Sato S, Bouchez A & Keck F (2019) Connecting the morphological and molecular species concept to facilitate species identification within the genus <i>Fragilaria</i> (Bacillariophyta). <i>Journal of phycology</i> 55 : 948-970. • Dąbek P, Ashworth MP, Górecka E, Krzywda M, Bornman TG, Sato S & Witkowski A(2019) Towards a multigene phylogeny of the Cymatosiraceae (Bacillariophyta, Mediophyceae) II: Morphological and molecular insight into taxonomy of forgotten species <i>Campylosira africana</i> and genus <i>Extubocellulus</i>, with description of two new taxa. <i>Journal of phycology</i> 55: 425-441. • Yamada K, Katsura H, Noël MH, Ichinomiya M, Kuwata A, Sato S & Yoshikawa S (2019) Ontogenetic analysis of siliceous cell wall formation in <i>Triparma laevis</i> f. <i>inornata</i> (Parmales, Stramenopiles). <i>Journal of phycology</i> 55: 196-203. • Idei M, Sato S, Nagumo T & Mann DG (2018) Valve morphogenesis in <i>Diploneis smithii</i> (Bacillariophyta). <i>Journal of Phycology</i> 54: 171-186. • Carbelleira R, Trobajo R, Leira M, Benito X, Sato S & Mann DG (2017) A combined morphological and molecular approach to <i>Nitzschia varelae</i> sp. nov., with discussion of symmetry in Bacillariaceae. <i>European Journal of Phycology</i> 52: 342-359. • 鎌倉史帆・佐藤晋也 (2018) 「研究ノート」福井県中池見湿地から単離した <i>Epithemia</i> 2 株の形態と系統学的位置. <i>日本珪藻学会誌 DIATOM</i> 34: 68-69.

②著書

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)

- ・珪藻観察図鑑 ガラスの体を持つ不思議な微生物「珪藻」の、生育環境で分かる分類と特徴、全 240 ページ、共著 (100 ページ程度の執筆を担当)、2018 年、誠文堂新光社

③学会報告等

(タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))

- ・佐藤晋也 (2019) ガラスの細胞壁をもつ珪藻とパルマ藻. 北陸バイオシンポジウム. 福井県あわら. 2019 年 10 月 25 日.
- ・Ban H, Blanc-Mathieu R, Kuwata A, Yoshikawa S, Sato S, Ichinomiya M, Ogata H (2019) Looking for ancestral genomic features in Parmales algae: the sister group of diatoms. IBSB. 京都大学吉田キャンパス, 京都. 2019 年 7 月 10 日.
- ・伴広輝, Blanc-Mathieu R, 桑田晃, 吉川伸哉, 佐藤晋也, 一宮睦雄, 緒方博之 (2019) パルマ藻・珪藻の祖先的形質の解明に向けた比較ゲノム解析. 微生物生態学会. 山梨大学甲府キャンパス, 山梨. 2019 年 9 月 12 日.
- ・新川裕大, 山田和正, 吉川伸哉, 桑田晃, 一宮睦雄, 佐藤晋也 (2020) 新規に分離された珪質型ボリド藻 *Tetraparma* 属 3 種の分子系統解析. 日本藻類学会第 44 回大会, 鹿児島大学, 鹿児島. 2020 年 3 月 27 日.
- ・桑田晃, 中村洋路, 一宮睦雄, 吉川伸哉, 佐藤晋也, 緒方博之 (2020) 珪藻の進化・繁栄の謎を握る未知の藻類:パルマ藻のゲノム解析. 日本藻類学会第 44 回大会, 鹿児島大学, 鹿児島. 2020 年 3 月 27 日.
- ・佐藤晋也, 豊田健介, 長田敬五, 出井雅彦 (2020) 変わり者の中心珪藻 *Hydrosera* の殻微細構造、種内多型およびオルガネラゲノム. 日本藻類学会第 44 回大会, 鹿児島大学, 鹿児島. 2020 年 3 月 27 日.
- ・鎌倉史帆, 佐藤晋也 (2018) フィールド調査と培養実験からみた *Epithemia* 属 2 分類群の生存戦略. 日本珪藻学会第 38 回研究集会, 近畿大学医学部, 大阪. 10 月 27 日—28 日.
- ・佐藤晋也, 吉川伸哉, 南雲保, 桑田晃, 山田和正, 一宮睦雄 (2018) パルマ藻未記載分類群の形態と系統およびゲノム解析. 日本珪藻学会第 39 回大会, 日本歯科大学新潟生命歯学部, 新潟. 5 月 19 日—20 日
- ・佐藤晋也 (2018) 珪藻の研究. 神戸大学公開セミナー, 六甲台キャンパス, 神戸. 10 月 5 日
- ・中村憲章, 磯野弘之, 佐藤晋也 (2018) 珪藻 *Pseudostaurosira trainorii* におけるオルガネラゲノムの遺伝様式. 日本藻類学会第 42 回大会, 東北大学青葉山新キャンパス, 仙台.
- ・鎌倉史帆, 阿知波里歩, 杉本亮, 近藤竜二, 佐藤晋也 (2018) *Epithemia* 属珪藻 2 分類群の生存戦略の比較. 日本藻類学会第 42 回大会, 東北大学青葉山新キャンパス, 仙台.
- ・吉川伸哉, 佐藤晋也, 山崎誠司, 一柳紀凜, 山田和正, 一宮睦雄, 斉藤憲治, 中村洋路, 佐藤直樹, 桑田晃 (2017) パルマ藻 *Triparma laevis* の細胞壁形成機構の解析. 日本植物学会第 81 回大会, 東京理科大学野田キャンパス, 千葉. 9 月 8 日—10 日
- ・山田和正, 山崎誠司, 佐藤晋也, 桑田晃, 一宮睦雄 (2017) 新規培養株の確立により示されたパルマ藻の系統的多様性. 2017 年日本プランクトン学会・日本鞭トス学会合同大会. 滋賀県立大学. 滋賀.
- ・吉川伸哉, 山田和正, 桂大貴, 一宮睦雄, 桑田晃, 佐藤晋也 (2017) パルマ藻の殻形成についての研究. 珪藻学会第 37 回研究集会. 三方青年の家. 福井. 10 月 14 日-15 日.
- ・濱口拓朗, 中村憲章, 一宮睦雄, 桑田晃, 吉川伸哉, 佐藤晋也 (2017) パルマ藻オルガネラゲノムの構造進化. 珪藻学会第 37 回研究集会. 三方青年の家. 福井. 10 月 14 日-15 日.
- ・中村憲章, 磯野弘之, 佐藤晋也 (2017) *Pseudostaurosira trainorii* におけるオルガネラの遺伝様式の解明. 珪藻学会第 37 回研究集会. 三方青年の家. 福井. 10 月 14 日-15 日
- ・鎌倉史帆, 阿知波里歩, 佐藤晋也 (2017) *Epithemia* 属 2 種の形態比較および分子系統解析.

- 珪藻学会第 37 回研究集会. 三方青年の家. 福井. 10 月 14 日-15 日.
- 鎌倉史帆, 中村憲章, 佐藤晋也 (2017) 福井県の中池見湿地における珪藻 *Epithemia* の有性生殖に関する研究. 北陸植物学会 平成 29 年度大会. 新潟大学. 新潟. 6 月 11 日.
 - 鎌倉史帆, 中村憲章, 佐藤晋也 (2017) 中池見湿地に出現する *Epithemia* sp. の生活史. 日本珪藻学会第 38 回大会. 大森海苔のふるさと館. 東京. 5 月 27 日-28 日.
 - 山田和正, 山崎誠司, 佐藤晋也, 吉川伸哉, 桑田晃, 一宮睦雄 (2017) パルマ藻株 *Triparma retinervis* の確立により示された珪質型パルマ藻の非単系統性. 日本藻類学会第 41 回大会. 高知大学. 高知. 3 月 24 日-25 日.
 - 中村憲章, 真山茂樹, 佐藤晋也 (2017) 汽水産珪藻 *Pseudostaurosira* の被殻を裏打ちする有機層の構造的, 生化学的特徴. 日本藻類学会第 41 回大会. 高知大学. 高知. 3 月 24 日-25 日.
 - Sato S, Nanjappa D, Dorrell R, Vieira FRJ, Kazamia E, Tirichine L, Veluchamy A, Fussy Z, Mann DG, Bowler C, Zingone A (2019) Genome-enabled phylogenetic and functional reconstruction of an araphid pennate diatom CCMP470, previously assigned as a radial centric diatom, and its bacterial commensal. EMBO Workshop "The 5th molecular life of diatoms". Norwich, UK.
 - Sato S, Yoshikawa S, Yamada K, Nagumo T, Idei M, Kuwata A, Ichinomiya M (2018) Morphology, phylogeny and whole genome sequence of a hitherto undescribed scaly Parmales – reminiscent of pre-diatom? 25th International Diatom Symposium. Berlin, GERMANY. 25-30th June.
 - Nakamura N, Sato S (2018) Organellar genome inheritance in araphid diatom *Pseudostaurosira trainorii*. 25th International Diatom Symposium. Berlin, GERMANY. 25-30th June.
 - Kelly M, Mann DG, Walsh K, Glover R, Juggins S, Sato S, Boonham N, Jones T (2018) Development and adoption of a high-throughput-sequencing approach to diatom-based ecological assessments in the UK. 25th International Diatom Symposium. Berlin, GERMANY. 25-30th June.
 - Mann DG, Kelly MG, Walsh K, Juggins S, Sato S, Boonham N, Jones T (2017) Development and adoption of a next-generation-sequencing approach to diatom-based ecological assessments in the UK. 11th International Phycological Congress. Szczecin, Poland. 13-19th August.
 - Trobajo R, Mann DG, Li C, Sato S, Rimet F, Rovira L, Witkowski A (2017) A four-gene approach to the Bacillariaceae: establishing a framework for classifying a highly diverse and taxonomically difficult diatom group. 11th International Phycological Congress. Szczecin, Poland. 13-19th August.
 - Nakamura N, Sato S (2017) Comparison of genome between opposite mating types of *Pseudostaurosira trainorii*. 11th International Phycological Congress. Szczecin, Poland. 13-19th August.
 - Sato S, Toyoda K, Osada K, Idei M (2017) Whole genome sequencing of two closely related but morphologically distinct clones of centric diatom *Hydrosera*. 11th International Phycological Congress. Szczecin, Poland. 13-19th August.
 - Yamada K, Yamazaki M, Sato S, Yoshikawa S, Kuwata A, Ichinomiya M (2017) Silicified bolidophytes (Parmales, Bolidophyceae) is not monophyly as evidenced by the phylogenetic characterization of *Triparma retinervis*. 11th International Phycological Congress. Szczecin, Poland. 13-19th August.
 - Yoshikawa S, Sato S, Yamazaki M, Yamada K, Ichinomiya M, Saitoh K, Nakamura Y, Sato N, Kuwata A (2017) Morphological and transcriptome analysis in cell wall formation of *Triparma laevis*. The 73rd Fujihara Seminar "Molecular Life of Diatoms". Kobe, Japan. 9-13 July.
 - Sato S, Toyoda K, Osada K, Idei M (2017) Comparative genomics in two closely related but morphologically distinct clones of centric diatom *Hydrosera*. The 73rd Fujihara Seminar "Molecular Life of Diatoms". Kobe, Japan. 9-13 July.
 - Nakamura N, Sato S (2017) Comparison of organellar genome between opposite mating

types of *Pseudostaurosira trainorii*. The 73rd Fujihara Seminar "Molecular Life of Diatoms". Kobe, Japan. 9-13 July.

④その他の公表実績

- ・生物研究社 海洋と生物に記事「珪藻の分類と系統」を掲載。2019年12月 245巻
- ・読売新聞 福井版「学ぼっさ」にて研究紹介記事の掲載 2018年11月7日朝刊
- ・北陸技術交流テクノフェア 2018にて研究紹介ポスターの出展 2018年10月23～24日
- ・北陸植物学会インターキャンパスセミナーにて研究室紹介 2018年6月16日
- ・NPO 法人中池見ねっと機関紙、中池見通信への科学エッセイ寄稿 「もうキモチワルイなんて言わせない アオミドロの婚活?!」 2017年39号 p.4
- ・NPO 法人中池見ねっと機関紙、中池見通信への科学エッセイ寄稿 「先生、弟子にして下さい! ケイソウはガラス細工の巨匠」 2017年40号 p.4
- ・NPO 法人中池見ねっと機関紙、中池見通信への科学エッセイ寄稿 「みんなはひとりのために! クシケイソウは生物進化の博物館」 2017年41号 p.4
- ・NPO 法人中池見ねっと機関紙、中池見通信への科学エッセイ寄稿 「変な生物ナンバーワン 渦鞭毛藻は宇宙からやってきた?!」 2018年42号 p.4

報告書

- ・ Kelly M, Boonham N, Juggins S, Kille P, Mann D, Pass D, Sapp M, Sato S & Glover R (2018) A DNA based diatom metabarcoding approach for Water Framework Directive classification of rivers. SC140024/R, Environment Agency, Bristol. ISBN: 978-1-84911-406-6.
- ・佐藤晋也 珪藻 DNA メタバーコーディング解析による河川湖沼水質評価法の開発. 2017. IFO Research Communications No.31 p.127 (発酵財団助成研究報告集)

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動 (担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))

- ・日本珪藻学会、第40回大会、座長(2019年5月)
- ・日本珪藻学会、第39回研究集会、座長(2019年11月)
- ・日本珪藻学会、第38回研究集会、座長(2018年10月)
- ・国際珪藻学会、第25回大会、座長(2018年7月)
- ・日本珪藻学会 第39回大会、座長(2018年5月)
- ・日本珪藻学会、第37回研究集会、座長(2017年10月)
- ・日本珪藻学会、第38回大会、座長(2017年5月)

学会での役職など (学会名)

- ・日本珪藻学会学会誌 DIATOM, 編集長(2019年1月～現在)
- ・日本珪藻学会学会誌 DIATOM, 編集委員(2017年度以前～2018年12月)
- ・日本藻類学会 評議委員(2019年1月～現在)
- ・日本珪藻学会 運営委員(2017年1月～現在)
- ・日本藻類学会学会誌 Phycological Research, Editorial Secretary(2016年1月～2017年3月)
- ・国際藻類学会学会誌 Diatom Research, Associate Editor(2011年1月～現在)

学会・分科会の開催運営 (担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所)

- ・日本珪藻学会、第37回研究集会 2017年10月14日・15日、三方青年の家

査読【雑誌名】

DIATOM (2017年度以前～2019年度)

Diatom Research (2017年度以前～2019年度)
Protist (2017年度以前～2019年度)
Phycological Research (2018年度)
Nova Hedwigia (2017年度、2019年度)
Nova Hedwigia Beiheft (2017年度、2019年度)
European Journal of Phycol (2017年度)
Harmful Algae (2017年度)
Journal of Phycology (2016年度～2017年度)
Scientific Reports (2017年度)
Applied Sciences (2017年度)

(3)研究会活動等

①その他の研究活動参加 (参加研究会名、調査活動名 (期間))

- ・ MetaSUB 国際コンソーシアムに参画し、2019年6月21日の世界同時微生物サンプル採集イベントに参加した。
- ・ 海外共同研究者 (ドイツ イェナ大学 Prof. Dr. Georg Pohnert) との実験のため、2018年8月6日～17日まで小浜キャンパスに招へいし、共同プロジェクト「珪藻の性フェロモン構造解析」を行った。
- ・ 海外共同研究者 (アメリカ PACE 池端慶裕博士) の小浜キャンパス訪問を受け、2017年6月8日に公開セミナーを開催した。
- ・ 海外共同研究者 (ドイツ アルフレッドウェグナー研究所 Dr. Maddalena Bayer) の小浜キャンパス訪問を受け、2017年4月3日に公開セミナーを開催した。

②その活動による成果

- ・ サンプルングは講義中に教室内で、また希望者を募り小浜駅や市内バス停で行った。生物多様性の理解に際し、参加者は実際に国際研究プロジェクトの枠組みで作業を進め、そのメリットや問題点について体験することができた。
- ・ 性フェロモンのバイオアッセイ系の確立および LC-MS/MS 解析用サンプルのカラム吸着が完了した。
- ・ 13名の参加者が積極的な意見交換を行った。
- ・ 19名の参加者が積極的な意見交換を行った。

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

外部資金

- ・ 科研費 基盤研究(C)「ピコ真核藻類・パルマ藻の分類学的位置」
- ・ 科研費 基盤研究(C)「珪藻の新奇シリカ構造体の形態形成及びその関連遺伝子の解析」

学内競争資金

- ・ 戦略的課題研究推進支援「仔魚および稚貝養殖における有用餌料珪藻の長期培養法確立に向けた、珪藻生殖メカニズムの遺伝的理解」
- ・ 教員研究費 研究費 [D 枠]「比較ゲノムおよびトランスクリプトーム解析を通じた珪藻ゲノムアイランドの決定および細胞壁形態に関与する因子の探索」
- ・ 特別研究費 [B 枠]「若狭湾珪藻にみる多様性と生活史、およびそれらの温暖化応答」
- ・ 環境整備費 [C 枠]「日本珪藻学会第37回研究集会 学会開催助成」
- ・ ステップアップ研究支援「珪藻シリカ細胞壁の形態形成を司る遺伝的因子の探索」
- ・ 戦略的課題研究推進支援「福井県で採集された不老不死珪藻の餌料としての可能性を探る」

(5)特許出願

(6) 研究活動の表彰

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体

①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）

②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）

③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）

④（兼業規程で業務と見なされる範囲内の）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）

⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
（事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）

- ・ JST がアジア地域と日本との学術交流を促進する目的で主催しているさくらサイエンスプランを通じ、藻類学に関する 7 日間の実験・実習コースを小浜キャンパスにて開催した。参加者 15 名（ベトナム 6 名、タイ 6 名、中国 3 名）、予算 330 万円。 2018 年 11 月 14 日～20 日。
- ・台湾の高校生 17 名および教員 3 名を対象とした講義「Algae research at Obama」を行った。福井県立大学小浜キャンパス，福井県小浜市。2017 年 4 月 19 日

⑥その他（名称、活動場所、活動期間）

- ・福井県高等学校理科教員と本学生物資源学部・海洋生物資源学部教員との情報交換 研究発表 アオッサ 2017 年 7 月 31 日
- ・SSH スーパーサイエンスハイスクール事業「海藻のおしば標本作製と薄層クロマトグラフィーによる光合成色素の分析」佐藤晋也，山田和正。岐阜県立恵那高校の生徒を対象にした臨海実習，福井県立大学小浜キャンパス，福井県小浜市。2019 年 7 月 26 日
- ・SSH スーパーサイエンスハイスクール事業「海藻のおしば標本作製と薄層クロマトグラフィーによる光合成色素の分析」吉川伸哉，佐藤晋也。岐阜県立恵那高校の生徒を対象にした臨海実習，福井県立大学小浜キャンパス，福井県小浜市。2018 年 7 月 27 日
- ・SSH スーパーサイエンスハイスクール事業「海藻のおしば標本作製と薄層クロマトグラフィーによる光合成色素の分析」吉川伸哉，佐藤晋也。岐阜県立恵那高校の生徒を対象にした臨海実習，福井県立大学小浜キャンパス，福井県小浜市。2017 年 7 月 28 日
- ・出前講義「知れば知るほど面白い藻類の世界」岐阜県恵那高校。2019 年 7 月 17 日
- ・出前講義「基礎藻類学概論」岐阜県恵那高校。2018 年 7 月 18 日
- ・出前講義「藻を研究する」岐阜県恵那高校。2017 年 7 月 20 日
- ・若狭高校 学問発見講座「実はとっても奥が深い藻類の世界」2019 年 10 月 2 日
- ・若狭高校 公開授業および授業研究会 2019 年 11 月 14 日
- ・仁愛女子高等学校実習「藻類の多様な色彩を科学する」山田和正、佐藤晋也 2019 年 8 月 7 日
- ・2019 年 3 月 21 日、中池見人と自然のふれあいの里、みんなで報告会にて講演、「中池見で見つけた不老不死の珪藻」
- ・FBC ラジオキャンパスようこそ県大研究室 2019 年 2 月 23 日「さくらサイエンスプラン」
- ・FBC ラジオキャンパスようこそ県大研究室 2017 年 10 月 21 日「珪藻の研究」

(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講 (タイトル名、開催場所、開催日時)
<ul style="list-style-type: none"> ・ダイオウイカを追い続けて、小浜キャンパス、2019年10月19日 ・プランクトンの世界をのぞいてみよう、福井県海浜自然センター、2018年5月6日 ・あっとおどろくミクロの世界、小浜キャンパス、2017年7月29日
②社会人・高校生向けの講座 (タイトル名、開催場所、開催日時)
<ul style="list-style-type: none"> ・入試説明会、福井工業大学附属福井高校、2018年9月21日 ・入試説明会、敦賀高校、2018年10月11日 ・入試説明会、三国高校、2017年9月8日
③その他 (名称、活動場所、活動期間)
(3)その他 (個人の資格で参加している社会活動等)
(活動内容、主たる活動場所、活動期間)

6. 大学の管理・運営

(1)役職 (副学長、部局長、学科長)
(職名、期間)
(2)委員会・チーム活動
(名称、期間)
<ul style="list-style-type: none"> ・FD 部会 (2019年度) ・Jabee 委員会 (2019年度) ・FPUnet 運用管理連絡会議 (2017年度～2018年度) ・学科再編 WG (2019年度) ・教育環境改善担当 (2019年度) ・教育 GP 対応担当 (2019年度) ・教員評価委員会 (オブザーバー) (2017年度～2018年度) ・高大連携ワーキンググループ (2017年度～2018年度) ・教務委員会・初年次教育担当 (2017年度～2019年度) ・学部情報関連委員会・FPU ネットおよび情報処理室担当 (2017年度以前～2018年度) ・学生支援委員会・海友会支援担当 (2017年度以前～2018年度) ・入試委員会・入試企画担当 (2017年度以前～2019年度) ・H27年度生アドバイザー (2017年度以前～2018年度) ・2018年度入学生 クラス副担任 (2018年度)
(3)学内行事への参加
(行事名、参加日時)
<ul style="list-style-type: none"> ・白檜祭 大学 25 周年企画 県大創生フォーラムの企画 ・白檜祭 2018 年度、研究室対抗二人羽織 ・白檜祭 2017 年度、海友会担当として学園祭の 1 日巡回 ・2018 年 8 月 5 日 オープンキャンパス、永平寺 C にて保護者との個別相談担当 ・H29 年度 生物資源学部との学部合同研究交流会における研究紹介。「役に立つ珪藻の研究」. 12 月 22 日. 小浜キャンパス. ・ランチタイムセミナー 2018 年 11 月 22 日 珪藻の研究 in 福井

(4)その他、自発的活動など

(活動名、活動内容、活動期間)